

湘南自然誌

季刊

Vol.38

October 16th 2025

神奈川・湘南
地域の自然を
再発見する



特集

アサギマダラ

小さな体に詰まった不思議とロマン



融合中
四季 園児 自然

湘南発
園児 地域 皆
投稿写真 季節毎 掲載

生 図鑑

自然 ツー子

平岡 自然教育 今

県立愛川 村

吉田文雄学芸員

心育 幼児教育

遊 学生

知育 I

四季のコラム 夏

本誌発行元の平岡幼稚園の園便りに掲載したコラムを一部改編してお届けします。

文／堀田 佳之介（平岡幼稚園 園長）

2025 年 5-6 月

平岡幼稚園の生きものトピックス！



2025 年 5 月から 6 月にかけて平岡幼稚園（平塚市岡崎）で見られた生きものトピックスを紹介します。

まずはシジュウカラの巣箱の続報です。GW 前の営巣発見後、瞬く間に巣立ってしまったことを前号で書きましたが、なんと、その後も別の巣箱で営巣を確認しました（写真 1-3）。親鳥が頻繁にヒナの餌を啜って出入りする姿に「あ！お母さんがイモムシを持ってきたよ」「こんどはクモ！」と、園児たちと一緒にシジュウカラの子育ての様子を観察することができました。

次はムシャクロツバメシジミ（写真 4）。中国から移入した外来種です。神奈川県では 2021 年に初発見されていて、今年初めて園内で確認されました。幼虫の食草のマンネングサの仲間は園内にもあるので、今後目撃例が増えるかもしれません。

最後は神奈川県未記録種のヒラタガリカメムシです。国内では石垣島と西表島に分布する本種ですが、2010 年代より西日本を中心に移入由来と考えられる個体が増えているようです。5 月のとあ

る日、なんと園児が園内でこのカメムシを発見しました。神奈川県では初確認となるので、専門誌で発表しました（詳細は P24 参照）。カメムシなんて注目する人はあまりいないと思いますが、どんな虫でも興味を持って接する平岡っ子ならではの大きな成果といえるでしょう。

1／いつも園児が集まる場所のすぐ近くに設置してある巣箱。このように人の出入りのある場所でも営巣してくれた。2／スズメガの仲間の幼虫を運ぶ親鳥。3／巣箱から親鳥が飛び出す瞬間。4／園内で見つかったムシャクロツバメシジミ。5／園児が発見したヒラタガリカメムシ（県内初記録）。

吸血する虫

マダニ・ヤマビルに山でやられた園長



マダニが媒介する感染症 SFTS の感染者数が今年過去最高を記録し、ついに神奈川県内でも感染者が報告されました。マダニは、平塚市内では稀ですが、丹沢山地や箱根山方面に行くと、たびたび見かける生きものです（写真 1-2）。私は生物調査で山の草むらに入る機会が多いのですが、やられたのは今回が初めてでした。ふと足の“かさぶた”らしきものが気になり、ルーペで拡大して見るとマダニだったのです（写真 3）。直ちにワセリンを厚塗りして窒息させた後、翌朝皮膚科で除去してもらいました。マダニは吸血が完了するまで何日もかかります。山などで自然観察をした後は、入浴時にマダニが付いていないか、お子さんの体をチェックしてあげるとよいでしょう。草むらに入るときは長ズボンを履くだけでも大きな予防になります。

次はヤマビル。市内では見たことがありませんが、伊勢原や秦野など丹沢方面へ行くとよく見られます（写真 4-5）。感染症を媒介することはないようですが、血を吸われたら良い気持ちはしませ

ん。先日、丹沢方面の調査から帰宅して足を見ると、吸血して丸々太ったヤマビルが張り付いていました。すぐに食塩を振ったところ、ポロっと落ちて、更に塩を振ると息絶えました。

私はヤマビルとマダニは嫌悪感があり、これまでかなり気を使っていました。しかし今回、必死に取り付いて子孫を残そうとするその姿に、「あなたも生きるために一生懸命なんだよね」と、心のどこかで憎めない気持ちを抱きました。マダニは本当に気を付けた方がよいので、そんな悠長なことを!と言う方もいらっしゃるかもしれませんが、ひたむきに生きる命の純粋さを前にしたらやっぱり恨めなかったのです。

1-2 / マダニには大小さまざまな種類がいる。3 / 皮膚に頭を潜り込ませて吸血する様子。4-5 / ヤマビルは湿り気のある場所を好む。人が近づくと、体を立てて人のいる方へ近づいてくる。体をくねらせるのではなく尺取り虫のように移動する。



特集

アサギマダラ

小さな体に詰まった不思議とロマン



1 はじめに

「アサギマダラ」と聞いてもどんな蝶なのかすぐに思い浮かばない方が多いと思うが、大人気漫画・アニメ『鬼滅の刃』の蝶屋敷で舞っている蝶のこのたとえ言われたら姿を想像しやすいかもしれない。その蝶屋敷の主であり、美しい外見を持つ登場キャラクター「胡蝶しのぶ」は、作中で植物の毒を体内に蓄える。これは、同じく美しい外見を持ち、幼虫時代に食草の毒を体に取り込むこの蝶をモチーフにしていると思われる。

そんなアサギマダラは、世界的にも珍しい「海を渡る蝶」で、春に日本列島を北上し、秋に南下する。個体によっては日本から海外まで飛行することもある、昆虫なのに渡り鳥のような生態を持った蝶なのだ。

なぜそこまで長距離を移動しなくてはならないのか？暑さを避けるため？それとも吸蜜する花や幼虫が食べる草を見つけるため？だとしても、先が見えないのにどうして行先を決められるのだろう？そんな多くの不思議を秘めた蝶だが、実は意外と身近な場所でも出会える可能性があるのだ。

今回、アサギマダラの調査を20年以上続けている蝶類研究家の芦澤一郎さんに協力していただくことができたので、この蝶の魅力を皆様に紹介したい。



協力してくれたひと

蝶類研究家

芦澤 一郎 あしざわ いちろう

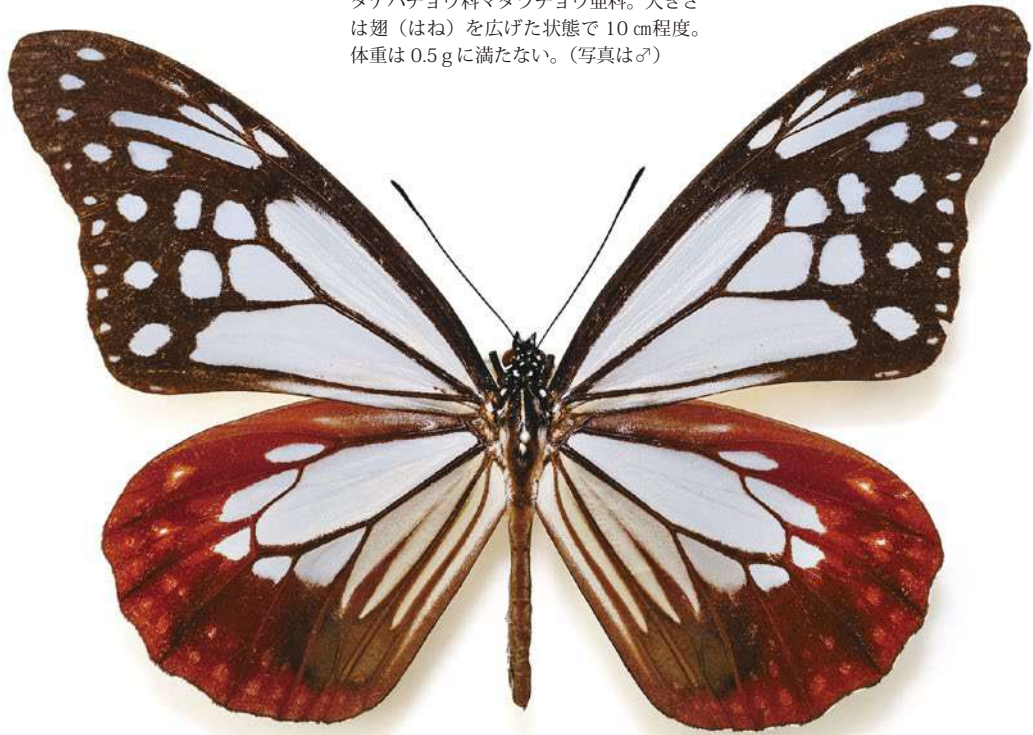


横浜市立大学卒。三浦市在住。元中学校教諭で、神奈川県におけるアサギマダラ調査の第一人者。1日の最多マーキング数は箱根での203頭。現在は主に幼虫の生息記録を追っており、2003年からの調査報告は1万1100件を超える。日本鱗翅学会・三浦半島昆虫研究会等所属。

アサギマダラ

学名： *Parantica sita*

タテハチョウ科マダラチョウ亜科。大きさは翅（はね）を広げた状態で 10 cm 程度。体重は 0.5 g に満たない。（写真は♂）



黒い斑紋の有無で性別を見分ける。左がオス、右がメスだ。



白っぽい部分は半透明で光が透けているのがわかる。



前脚が退化して 4 本脚に見えるのがタテハチョウ科の特徴。

2 アサギマダラの特徴

優雅に滑空するように舞う姿が美しいアサギマダラ。大きさは翅（はね）を広げた状態で 10 cm ほどで、体重は 0.5 g 以下。アゲハチョウくらいのサイズ感だ。翅の白っぽい部分は、鱗粉がほとんどなく半透明になっていて、光の加減により、名の由来になっている浅葱色（あさぎいろ／緑みのある明るい青）にほんのり色付く。オスとメスの外見は似ているが、オスには後ろの翅に性標と呼ばれる黒い斑紋があるので見分けは簡単だ。

集まる花には偏りがあり、特にオスはスナヒキソウやヒヨドリバナ、フジバカマといったピロリジンアルカロイドという有毒物質を含んだ植物を好む。これは、メスを引き寄せるフェロモンを作るためと言われている。

幼虫の食草はキョウチクトウ科（旧ガガイモ科）の植物でアルカロイド系の毒があるもの（湘南地域では主にキジヨラン）が選ばれる。幼虫時代に食べて毒を取り込むことで外敵から身を守るようだ。ちなみに神奈川県では幼虫で越冬する。

この蝶の最大の特徴は何といっても「旅をする」ところだろう。神奈川県では、初夏（5月～6月頃）に北上し、秋（10月～11月頃）に南下する。日本本土から飛び出し南西諸島や台湾まで南下する個体も多く、なかには小笠原諸島や香港まで飛行していった例もあるのだ。

1980年代ごろから行われているマーキング調査※により飛行ルートは判明しつつあるようだが、その大移動の謎は、まだまだ尽きないようだ。

※マーキング調査：対象の生きものに印をつけて放し、別の場所まで捕まえて移動ルートなどを探る調査手法のこと。



特集

アサギマダラ

小さな体に詰まった不思議とロマン



A～C／オスはムラサキカッコウアザミ (A)、スナピキソウ (B)、ヒヨドリバナ (C) などアルカロイド系の毒を含む花を好む。花がない時は写真Cのように葉に口吻を伸ばして必要成分を摂取しようとする姿も観察できる。D／メスは毒のない花にも訪れる (写真はセイタカアワダチソウ)。背後に見えるのは湘南平のシンボルのTV塔。E／キジョランの葉裏に産卵の様子。F／アサギマダラの卵。



G～H／キジョランの葉を食べる若齢幼虫と食痕 (白い部分は葉から出た液体がかたまったもの)。若い幼虫は円形に齧った後で内側の葉を食べる (毒を取り込み過ぎないようにするためとも言われている)。I／成長した幼虫は葉の縁から齧りだす。J／アサギマダラの終齢幼虫。K・L／アサギマダラの蛹と蛹の殻。葉の裏で見られることが多い。殻は透明感があったとても綺麗な。

写真：芦澤一郎撮影 (A・B・F・H・J・K)
牧野田節子撮影 (E・G)
編集部撮影 (C・D・I・L)

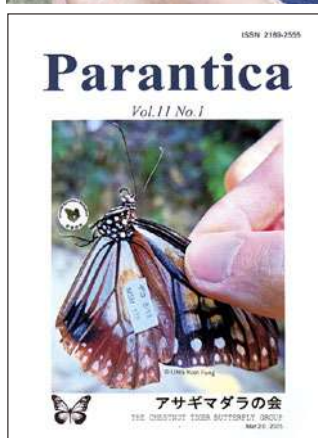
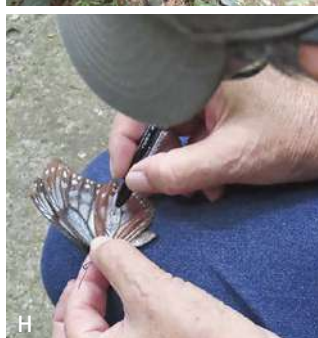
さんとともに丁寧に探索してまわるが……アサギマダラ独特の丸い食痕は多数見つかったものの、成虫、幼虫、卵は見つからず、残念ながらこの日は空振りに終わった。ちょっとした条件の違いに左右されるのが生きものの調査の難しいところである。

芦澤さんによると、ひと昔前は神奈川県でも7月下旬から8月に箱根へ行けばほぼ確実にたくさんのアサギマダラに出会えたそう。しかし近年は、アサギマダラの訪花植物（ヒヨドリバナなど）が鹿の食害に遭い、箱根への飛来が激減しているらしい。県内縦断の要所となる箱根の惨状が波及しているのか、この猿島でも随分と飛来数が減ってしまったようである。

ちなみに、マーキング調査は全国各地で盛んに行われているため、たまたま虫捕りをしていただけの子どもがマーク付きのアサギマダラを捕まえることも多いのだとか。もしマーキングされている個体を見つけたら、是非とも写真を撮影して蝶類の研究者・団体（心当たりがあれば平岡幼稚園）に連絡してほしい。神奈川県内での再捕獲の例は少ないようなので、貴重な記録となるのは間違いないだろう。



A／横須賀沖にある猿島は東京湾最大の自然島だ。**B～D**／猿島には旧日本軍の要塞跡が今も残り、『天空の城ラピュタ』を彷彿とさせる景観が人気を集めている。**D**は砲台地下施設。トンネル状になっていて通り抜けられる。



E・F／比較的薄暗い場所で見られるキジョラン。よく見ると丸いアサギマダラの幼虫の食痕が見られる。**G**／芦澤さんに案内され、島内の調査地点を巡る。**H**／アサギマダラの翅にマーキングをする芦澤さん。この日は成虫が見つからなかったが、芦澤さんが研究のために猿島で捕獲していたアサギマダラの放蝶が行われたため、その様子を見学させてもらった。**I**／後日他県におもむいた際、アサギマダラを見つけたので早速マーキングを行ってみた。**J**／アサギマダラ研究団体「アサギマダラの会」の会報。同様の会は複数ある。マーキングされたアサギマダラを見つけたら、このような会に報告するとよい。



アサギマダラ

小さな体に詰まった不思議とロマン

3 アサギマダラ調査に同行

2025年7月7日、神奈川県内でアサギマダラの調査を行っている芦澤さんに誘われ、横須賀市の沖合1kmに浮かぶ東京湾の無人島・猿島へ行ってきた。旧日本陸軍の要塞が築かれていたことで知られる猿島には、砲台などの史跡と共に豊かな自然が残されており、食草のキジヨランも多くみられる。そのため、芦澤さんも足しげく通うアサギマダラの調査ポイントとなっているのだ。

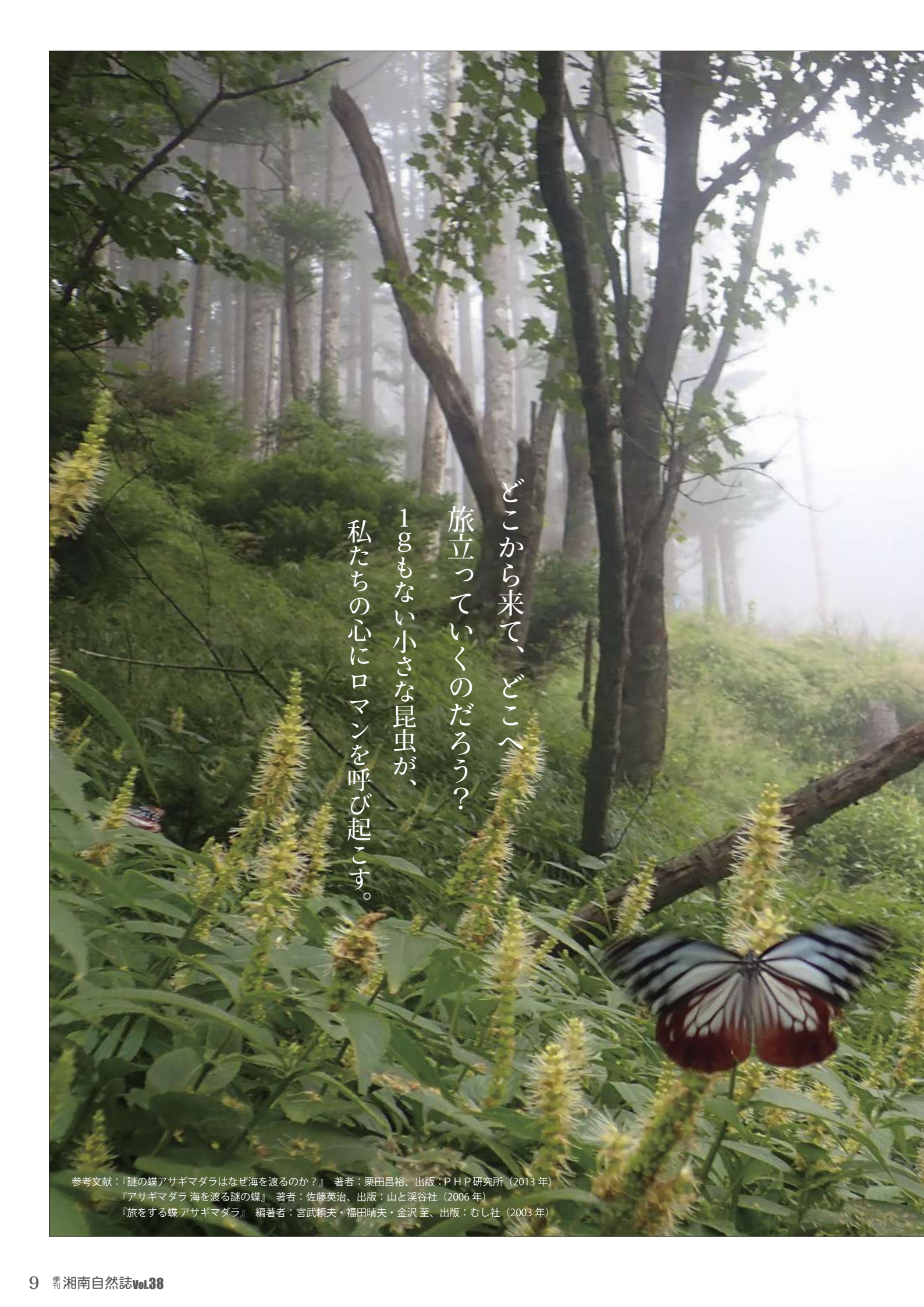
マーキング調査に必要なのは、油性マジック1本と証拠写真を撮るカメラ（スマホでも十分）、そして虫捕り網だけだ。アサギマダラを捕獲したら、翅の白い部分に「場所」「日付」「マーキングした人の名前、通し番号」を書き込んで写真を撮影し、再び空へ放す。空き瓶に手紙を入れて海に流すメッセージボトルのように、遙か遠くの誰かに再発見されるかもしれないと思うと、この地道な調査に壮大な夢を感じられてくる。

そんな感傷に浸りながらフェリーへ乗り、猿島へ上陸する。視界がかすむような湿気と猛暑の中、島内のキジヨランを芦澤



東京湾に浮かぶ無人島 猿島





どこから来て、どこへ
旅立っていくのだろうか？

1gもない小さな昆虫が、
私たちの心にロマンを呼び起こす。

参考文献：『謎の蝶アサギマダラはなぜ海を渡るのか？』 著者：栗田昌裕、出版：PHP研究所（2013年）
『アサギマダラ 海を渡る謎の蝶』 著者：佐藤英治、出版：山と溪谷社（2006年）
『旅をする蝶 アサギマダラ』 編著者：宮武頼夫・福田晴夫・金沢 至、出版：むし社（2003年）

4 やぐら

不思議とロマンはすぐそこにある

渡り鳥のように海を越えていくアサギマダラの姿を想像してみよう。わずか0.5gに満たない蝶が、翅を休める場所もなければ蜜を吸う花もない大海原に果敢に挑んでいくのだ。信じがたい持久力である。そもそもアサギマダラの眼には、海の向こう遥か先の陸地が見えているのだろうか？ その小さな体の中には、私たちの想像を超えた力と、尽きることのない謎が秘められている。

この特集ではアサギマダラの興味深い生態の一端しか紹介できなかったが、この蝶の魅力を少しでも感じてもらえたなら幸いである。アサギマダラは湘南地域に訪れて繁殖することもある蝶だ。本誌発行元の平岡幼稚園に飛来したこともあるくらいなので、身近な場所でも見つかる可能性は十分ある。湘南平など幼虫の食草となるキジョランが生えている場所に足を延ばせば、さらに出会うチャンスが高まるだろう。海を越えて数千キロも飛行する昆虫の不思議とロマンを、読者の皆さんもぜひ肌で感じて見て欲しい。



特集

アサギマダラ

小さな体に詰まった不思議とロマン

END

Photo / Kazuo Tsuyuki

皆さんの
投稿写真を
季節ごとに
掲載！

湘南発 みんなでつくる！

生きもの図鑑 夏



Explanatory notes

凡例 ① 場所・② 年月・③ 氏名

- ※ 対象地域は神奈川県です。
- ※ 同定者名の記載のないものは編集部(堀田佳之介)が同定。
- ※ 「県RDB2006」は、神奈川県レッドデータブック2006の略です。

みんなで身近な生きものの発見を楽しみながら、「いつ」「どこにいたか」という学術的なデータを集積していく図鑑です。

Mail QR コード



どなたでも投稿できます

「写真」「撮影日」「撮影場所」「発見者名」をお送りください。種名がわからなくてもOKです。

投稿用メール ikimono@hiraoka-kg.com

Web Site



種名を検索できます

創刊号～今号に掲載されたすべての種を検索できます (WEB 限定)

平岡幼稚園 HP <http://hiraoka-kg.com/creature/>



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 二宮ことは (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 橋松深 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 杉山凛 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 中戸川維吹 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 駒村風志 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 佐々木晴大 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 堀越日向 (現在は普通に見られる)



ハグロトンボ♂
① 平塚市北金目 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 沢田優衣 (現在は普通に見られる)



モノサシトンボ♀
① 厚木市中萩野 同定：—
② 2025年6月上旬 備考：県RDB2006 準絶滅危惧
③ 齋藤壮汰



アオモンイトトンボ♀
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 荒川弥



アオモンイトトンボ♀
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 堀部信城



アオモンイトトンボ♀
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年8月下旬 備考：—
③ 荒川弥



マルタンヤンマ♀
① 平塚市上吉沢 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ 堀田来佳



ヤブヤンマ♀
① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年8月中旬 備考：—
③ 堀田来佳



ヤブヤンマ♀
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年8月中旬 備考：産卵中
③ 富岡誠一



クロスジギンヤンマ♂
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 杉山凛空



オナガサナエ♂
① 中井町古怒田 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 堀田来佳



オニヤンマ幼虫
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 一瀬希織



オニヤンマ幼虫
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 井上愛菜



オニヤンマ幼虫
① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 門倉あん



オニヤンマ♂
① 厚木市七沢 同定：—
② 2025年7月中旬 備考：—
③ 小西碧



オニヤンマ♂
① 平塚市黒部丘 同定：—
② 2025年8月中旬 備考：—
③ 星野隼輝



コノシメトンボ未熟♀
① 山北町世附 同定：—
② 2025年8月上旬 備考：—
③ 堀田来佳



マユタテアカネ未熟♀
① 藤沢市遠藤 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 堀田来佳



ミヤマアカネ未熟♂

① 山北町塔瀬川 同定：—
② 2025年7月中旬 備考：県RDB2006 準絶滅
③ 堀田来佳 危機



ネキトンボ未熟♀

① 中井町田中 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 堀田来佳



ショウジョウトンボ♂

① 平塚市大原 同定：—
② 2025年8月下旬 備考：—
③ 荒川碧



ウスバキトンボ

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 佐藤龍虎



ウスバキトンボ

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 嶋津隼人



ウスバキトンボ♀

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 駒村風志



ウスバキトンボ♀

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 山口穂葉



ウスバキトンボ

① 愛川町平原 同定：—
② 2025年7月中旬 備考：—
③ 沢田拓音



ウスバキトンボ

① 厚木市温水 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ 荒川碧



ウスバキトンボ

① 厚木市温水 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ 荒川弥



ウスバキトンボ

① 厚木市温水 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ 荒川煌



ハラビロトンボ♀

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年6月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 香川結莉



ハラビロトンボ♂

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年6月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 大森咲穂



ハラビロトンボ♂

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年6月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 梅澤萌百歌



シオカラトンボ♂

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ ライトトラップ観察会



シオカラトンボ♂

① 平塚市大原 同定：—
② 2025年8月中旬 備考：—
③ 荒川弥



オオシオカラトンボ羽化殻

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 矢島夢姫



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 小松風真



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 森野陽人



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 堀部信城



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 林龍秀



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 高野瑞喜



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 駒村風志



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 佐野成生



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 柴神翔



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 齋藤社汰



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 村田祐造



オオシオカラトンボ♀

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 橋本颯馬



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 宮森鈴葉



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 山川梨乃



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 杉本颯磨



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 清水彩葉



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 田淵風



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 荒川煌



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 佐藤海翔



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 小西碧



オオシオカラトンボ♂

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年7月上旬 備考：—
③ 高橋峻太



オオシオカラトンボ♂

① 平塚市宮松町 同定：—
② 2025年7月下旬 備考：—
③ 磯田千晃



ヒガシキリギリス幼虫

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年6月上旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 香川結莉



クサキリ幼虫

① 平塚市馬入 同定：—
② 2025年7月中旬 備考：—
③ 磯田結月



クビキリギリス♀

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 柴神翔



アオマツムシ♀

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年8月下旬 備考：国内外来種
③ 荒井啓三



ケラ

① 平塚市土屋 同定：—
② 2025年8月下旬 備考：県RDB2006 要注意種
③ 荒井啓三



メスアカフキバッタ♂♀

① 小田原市曾我谷 同定：—
② 2025年8月上旬 備考：交尾中
③ 堀田来佳



ショウリョウバッタ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 松下結人



ショウリョウバッタ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月中旬 備考：—
③ 堀部信城



ショウリョウバッタ幼虫

① 平岡幼稚園内 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 宮森鈴葉



ショウリョウバッタ幼虫

① 座間市栗原 同定：—
② 2025年6月下旬 備考：—
③ 齋藤社汰